

■英語の諺 501-600 ★20220310

高橋伸治

501

Content is a kingdom.

日本語訳

満足は王国である。

日本の諺としては、「足るを知る」もしくは、「足るを知る者は富む。」があります。

人は「The more you get the more you want.」（得れば得るほど欲しくなる。）が性であると言われていますが、標記の諺はこのことを戒めています。

同じ内容の別の諺として、「A contented mind is a perpetual feast.」
（満足した心は永続的な祝宴である。）
があります。

502

We may give advice, but we cannot
give conduct.

日本語訳

私たちは助言するかも知れないが、行動を与えることはできなし。

日本の諺にはピッタリなものは見当たりませんが、要は「他人はあくまでも助言する立場であり、行動を実際にす

るのは本人である。」という考えは、日本でも一般的であると思います。

標記の諺は、18 世紀のアメリカの政治家・物理学者である、ベンジャミン・フランクリン（ Benjamin Franklin）の言葉とも言われています。

因みに、「advice」を含む別の諺として「Nothing is given so freely as advice.」（助言ほど自由に与えられるものはない。）があります。

503

Three women make a market.

日本語訳

三人の女性は市場を作る。

日本の諺としては、「女三人寄れば姦しい（かしましい）」がピッタリのようです。また、「女三人寄ると富士の山でも言い崩す。」という諺まであるようです。大変失礼な話ですが、要は、女性はおしゃべりなので、三人集まれば、市場の賑わいのように騒がしくて仕方ないということです。。

女性には失礼な話ですが、「and a goose」を挿入した、「Three women and a goose make a market.」も使われています。

Clever hawks conceal their claws.

日本語訳

賢い鷹は彼らの爪を隠す。

正に、日本の諺「能ある鷹は爪を隠す。」の直訳と言えます。果たして、どちらがオリジナルなのか判然としません。

洋の東西を問わず、鷹の狩猟の際に、隠れていた爪が飛び出すように現れる瞬間を目撃していた人類が、この諺を思いつくのは不思議ではありません。

また、この諺の裏には、伝家の宝刀は普段は見せないものだというニュアンスがあります。

この諺を使う適切な状況はあまり想像できませんが、軽いジョークのノリで

相手を褒める際には使えそうです。

505

Names and natures do often agree.

日本語訳

名前と性質はよく一致する。

日本の諺としては、「名は体を表す。」
が対応しています。また、熟語として
は「名実一体」と対応しています。
そもそも、「もの」や「こと」に名称を
与えるということは、極めて哲学的な
行為と言えます。

例えば、ペットの白い犬を「しろ：と

名付けることも、「ねこ」と名付けることもできます。

前者の場合は、極めて単純な「名は体を表す。」の実践になりますが、後者の場合は当てはまりません。

506

You can't make an omelette without breaking a few eggs.

日本語訳

いくつかの卵を割ることなしにあなたはオムレツを作ることができない。

日本でも、「何かを成就させるためには

犠牲がつきものだ。」という考えは一般的ですが、諺としてはピッタリなものは見当たりません。

卵を割ることがそれほどの犠牲とは思えませんが、確かに、オムレツは卵の中身を取り出さなければ作れません。

因みに、「a few」を削除した、「You can't make an omelette without breaking eggs.」も使われます。

また、アメリカでの「omelette」の綴りは「omelet」になります。

507

When the going gets tough, the tough get going.

日本語訳

進むことが難しくなった時、強靱なものが進む。

日本の諺にはピッタリなものは見当たりません。

標記の諺は、古代の戦争などにおいて、軍隊が原野を進軍する際のもので、つまり、平坦な地形ではほとんどの兵が同等に進めるが、悪天候や山越えなどで困難になった場合は、「強靱な者」が全体を引っ張っていくということです。

「tough」と「going」が、少し異なる意味で、韻を踏んで二度登場する点が優れていると言えます。

508

Better safe than sorry.

日本語訳

嘆くより安全な方が良い。

日本の常套句としては、「安全第一」、
諺としては、「君子危うきに近寄らず」
が対応しています。

日本語訳に補足すると、「後で嘆くより
最初から安全にしておけ。」ということ
になります。

標記は最も省略された表現であり、必
要な言葉を補うと、「It is better to
be safe than sorry.」 となります。そ

の中間としては「 Better be safe than sorry. 」があります。

509

You can lead a horse to water, but you can' t make him drink.

日本語訳

あなたは馬を水まで連れていくことはできるが、飲ませることはできない。

日本の諺としては、ピッタリなものは見当たりませんが、英語の諺であることとその翻訳はよく知られています。

要するに、こちらが良かれと考えて機

会を与えても、当事者が望んでいなければ思い通りにいかないという意味で使われます。

馬は自己主張が強い動物と考えられていて、「Money makes the mare to go.」

（お金は頑固な雌馬まで行かせる。）という諺もあります。

因みに、「him」ではなく、「it」のバージョンもあります。

510

Laughter is the best medicine.

日本語訳

笑いは最高の薬である。

日本の諺としては、「笑う門には福来る」
が近いかも知れません。

現代の医学的な検証においても、笑顔
が免疫力をたかめるじちが明らかにな
っています。

要するに、人類は医学が発達するいあ
えんから、経験則として、このこおと
を知っていたわけです。

参考になる諺として、「The best
doctors are Dr. Diet, Dr. Quiet, and
Dr. Merryman.」があります。

511

The fear is worse than the pain.

日本語訳

恐怖は苦痛より悪い。

日本の諺としては、「案ずるより産むが易し。」に通じるものがあると思います。よく調べて、よく考えて意思決定をおすることは当然ですが、慎重になりすぎて行動をしないことも問題です。また、失敗して多少痛い目にあったとしても、そこから学ぶことは小さくないと思います。

また、「It is not work that kills, but worry.」（殺すのは仕事ではなく心配である。）という諺があるように、心配は体の毒です。

512

We must howl among the wolves.

日本語訳

狼たちの中では私たちは吠えなければならない。

日本の諺としては、多少ニュアンスが違いますが、「郷に入らば郷に従え。」が近いかも知れません。

実際の生態について正確には理解していませんが、イメージとしては、狼は群れを成して行動し、群全体で遠吠えをする習性があるようです。

同じ意味で最も有名な諺として、「When

in Rome, do as the Romans do.」、バリエーションとして、「One must howl among the wolves.」があります。

513

After rain comes fair weather.

日本語訳

雨の後にはいい天気が来る。

日本の諺としては、「雨降って地固まる。」に近い意味ですが、標記の諺の方が、より単純な経験則を示していると言えます。

要は、「悪いことはいつまでも続くわけではない。」と励ます際の諺と言えます。

因みに、天気に関する諺は、「Rain before seven, fine before eleven.」や「After a storm comes a calm.」、あるいは、「March comes in like a lion, goes out like a lamb.」など数多くあります。

514

What goes around comes around.

日本語訳

回るものは回ってくる。

日本の常套句としては、「因果応報」が対応しているようです。

要は、あなたが良いことをしていれば、本人に良いことが起こり、悪いことをしていれば、悪いことが起こるということを意味しています。

「情けは人の為ならず。」の意味であるとされていますが、「自業自得」の意味も含まれ、両者を合わせた意味と考えるべきでしょう。

515

Eat, drink, and be merry.

日本語訳

食べて、飲んで、そして楽しめ！

日本の諺にはピッタリのものは見当た

りません。

由来としては、旧約聖書にもこの一説があるようですが、さらに遡ると、古代ギリシャにおける、エピキュラスの哲学、快楽主義に起因しているようです。

因みに、標記の諺の続きは、「for tomorrow we die.」というもので、要は、「今を大切にしよう」という意味で使われます。

516

The apple never falls far from the tree.

日本語訳

リンゴは木から遠く離れて落ちない

日本の諺としては、「この親にしてこの子あり」や「似たもの親子」、あるいは、「カエルの子はカエル」に対応しています。

正直に言えば、あまりピンときませんが、リンゴの実が親である幹から遠くには落ちないことから、親子の風貌や性格が近いということのようです。

バリエーションとして、「The apple doesn't fall far from the tree.」も使われます。

因みに、「apple」を含む、最も有名な諺として「An apple keeps away the doctor.」があります。

The fly has her spleen and the ant
her gall.

日本語訳

ハエにも脾臓があり、アリにも胆汁がある。

日本の諺としては、「一寸の虫にも五分の魂」が対応します。

究めて特異な表現であり、何か文学作品からの引用と考えられますが、定かではありません。

また、ハエとアリに脾臓や胆汁があるとしていますが、おそらく、事実ではないと思われます。

因みに、一般的には「一寸の虫にも五分の魂」に対応した英語の諺は、「Even

a worm will turn. 」、あるいは、「The worm turns. 」、「The worm will turn. 」とされています。

518

The gods send nuts to those who have no teeth.

日本語訳

神は歯のない者にクルミを送る。

日本の諺としてはピッタリなものは見当たりません。

要するに、標記の諺は、「神は時には意地悪をする。」という意味になります。

概ねは、神は慈悲深い存在であり、基

本的に誰にでも公平に恩恵を与えるものです。

例えば、「God tempers the wind to shorn lamb.」（神は毛を刈られた子羊に対する風を和らげる。）のです。

しかし、意地悪な一面もあるということのようです。

519

As soon as man is born he begins to die.

日本語訳

人は生まれるとすぐに死に始める。

日本の諺としてはピッタリなものは見

当たりませんが、無常観の根底にある認識と言えます。

実際には、成人するまで、当人はこのことを理解するこよはありません。主に親や保護者がそのことをどのゆに、その子の人生に反映させていくかが問われます。

ここで、限られた時間しか生きられないのだから、時間を無駄にしないで積極的に生きることを選ぶか、快樂のみを追求して生きるかは、考え方次第です。

520

The sun shines upon all alike.

日本語訳

太陽はすべてを同様に照らす。

太陽を神とする太陽信仰は日本の文化の大きな特徴ですが、日本の諺としてはピッタリなものは見当たりません。

標記の諺は、自然とそれを制御している神は、人間に対して公平・平等であり、すべての人にはチャンスが与えられているとしています。

バリエーションとして、「The sun shines everywhere.」（太陽は全ての場所を照らす。）があります。

521

Life is sweet.

日本語訳

人生は甘美である。

日本の発想ではないので、ピッタリな諺も見当たりません。

「sweet」はここでは、「素晴らしい・嬉しい」という意味で使われています。あまり有名ではありませんが、この題名で、イギリスのマイク・リー監督により 1991 年に映画が作られ、一定の評価を得たようです。

また、「ライフイズスイート」のブランド名で、クレープやクッキーなどが販売されています。

522

They think a calf a muckle beast that

never saw a cow.

日本語訳

親牛を見たことのない者は成牛を大きな獣と考える。

日本の諺、「井の中の蛙大海を知らず。」に対応しています。

標記諺の中の「muckle」は古代スコットランド方言で、「大きい・多い」の意味を持ち、「mickle」ともつづります。

因みに、「井の中の蛙大海を知らず。」に対応する英語の諺としては、「He that stays in the valley shall never get over the hill.」（谷の中にとどまる者は決して丘を越えないだろう。）の方が一般的です。

523

He that will lie will steal.

日本語訳

嘘をつくだらう男は盗むだらう。

日本の諺としては、正に「うそつきは泥棒の始まり」ということに」なります。

嘘がすべて悪ではないと思いますが、叱責や糾弾をさけるための、その場しのぎの後から問題を大きくするような嘘、あるいは、私利私欲のために人を騙すような嘘はいただけません。

嘘をついて、得をして、咎められないという経験が、盗みという犯罪への第一歩ということでしょうか。

「Honesty is the best policy.」という諺もあります。

524

Ill got, ill spent.

日本語訳

悪く得て、悪く使われる。

日本の諺としては、「悪銭身につかず。」に対応しています。

標記の諺は、必ずしもお金とは限りませんが、概ねお金と理解していいと思

います。

犯罪でないとしても、あまり良くない手段で得たお金や物は、世のためになる使い方はされない傾向があるということです。

より普遍的な諺として、「Easy come easy go.」（簡単に来たものは、簡単に行く。）があります。

525

Through hardship to the stars.

日本語訳

苦難を通じて星へ。

日本の諺としてはピッタリなものは見

当たりません。

標記の諺のルーツはラテン語の諺であり、「光り輝く有名人になるには苦難を乗り越えなければならない。」というものです。

ギリシアとローマの文明と文化がルーツであるヨーロッパでは、星や星座は、神話で語られるように、憧れであり目標であり、現代でも「映画スター」のように使われています。

「hardship」ではなく、「hardships」と複数形のものも使われます。

526

When wine is in wit is out.

日本語訳

ワインが入る時機知がなくなる。

日本にも酒に関する諺は数多くありますが、ピッタリなものは見当たりません。

ここでの「wit」はユーモアやシャレではなく、「知性」の意味で使われます。

つまり、思考力や判断力が落ちるとい
う、極めて科学的な見解を述べた諺と
言えます。

「wine」を含む諺として、「In wine,
there is truth.」があります。

変化形として、「wine」ではなく「ale」
や「drink」、また、「wine」と「wit」
の前に「the」を置いたものがあります。

527

All is fair in love and war.

日本語訳

恋と戦争ではすべてが正しい。

日本の諺としてはピッタリなものは見
当たりません

標記の諺は、「war」のことを引き合い
に出していますが、実は「love」につ
いて主張したかったと思われれます。

「love」については、「Love is blind」
（恋は盲目）や「Love laughs at
locksmiths.」（恋は鍵師を笑う。）、
「Love finds a way.」（恋は道を見つけ

る。) など、「love」が例外的な力を持つことを表す諺が少なくありません。

528

Love me, love my dog.

日本語訳

私を愛せ、私の犬を愛せ。

日本の諺にはピッタリなものは見当たりません。

以前から、標記の諺は日本の諺、「坊主憎けりや袈裟まで憎い。」の逆の意味であるとする説が横行していましたが、よく理解できません。

要は、標記の諺は、「私を愛するならば、私に関するものも愛せ。」ということですよ。

一方、「坊主～」は、「本人が嫌いだと関係するものまで嫌いになるものだ。」という意味であり、逆対応すると考えることには無理があります。

529

Way to a man's heart is through his stomach.

日本語訳

男の心への道は胃袋経由である。

日本の諺ではありませんが、結婚式に

おける、花嫁へ贈る定番の言葉として、
「三つの袋を大切に！」というものがあります。

説明するまでもなく、姑である「お袋」、
「給料袋」、そして、「胃袋」です。

要は、美味しい食事に対する感謝の気持ち
が、愛情を強めるということですが、
女性が食事を作るという前提です
ので、現在では使い方に気を付けない
といけません。しかし、標記の諺も同
じ前提と言えます。

530

When poverty comes in at the door,
love flies out of the window.

日本語訳

貧乏がドアから入ってくる時、愛は窓から飛んでいく。

日本の諺としては、「金の切れ間が縁の切れ目」ということでしょうか。

「comes in」を「knocks」に代えた「When poverty knocks at the door, love flies out of the window.」、
「in at」を「through」に代えた「When poverty comes through the door, love flies out of the window.」という変化形も使われます。

また、同じ意味の「Love lasts as long as money endures.」という諺もあります。

The peacock has fair feathers, but foul feet.

日本語訳

雄クジャクは美しい羽を持つが、足は汚い。

日本の諺、「天は二物を与えず。」に通じるものがあります。

羽を広げたクジャクは、鶏の中でも抜きんでて美しいものです。しかし、普段は気付かないクジャクの足は武骨で汚らしいようです。

要するに、美しく見える人も醜い部分があると教えています。

因みに、私たちは「peacock」がクジャク全般を意味すると思っていますが、

実は、「peacock」は「雄クジャク」のことであり、「雌クジャク」は「peahen」と言うべきということです。

532

Charity begins at home.

日本語訳

自宅から博愛は始まる。

日本の諺としてはピッタリなものは見当たりません。

そもそも、「charity」という概念はキリスト教的なものであり、日本の文化にはないようです。

標記の諺が存在する理由は、「charity」

がややもすると、自分や家族を除外して考えてしまいがちだからと言えます。要するに、自分と家族の心の安寧があってこそ「charity」ということです。

533

Love makes the world go round.

日本語訳

愛は世界を動かす。

日本の諺としては、「世は相持ち」に近いと言えます。

愛は、自己愛、家族愛、民族愛。郷土愛、そして博愛と多様です。他者を許

容しない愛は、対立を生み、時には戦争にさえエスカレートしてしまいます。標記の諺は、他人を思いやる博愛が世界を平和にして、上手く動かすという考えを表明しています。

「Love Saves the World!」（愛は世界を救う。）に通じるものがありますね。

534

Marriage is the tomb of love.

日本語訳

結婚は愛の墓である。

元々は、19世紀に活躍したフランスの詩人・評論家ボードレールが遺した言

葉と言われ、日本の諺としてはピッタリなものは見当たりません。

紛らわしいのですが、多くの日本人は「愛」ではなく、「人土」が含まれた「結婚は人生の墓場である」の方を耳にしていると思います。

重要なことは、どちらにしても、元々の意味は、「結婚はやめた方が良いものではなく、奨励すべきもの」という点です。

535

The folly of one man is the fortune of another.

日本語訳

一人の男の愚かさは他の者の幸運であ

る。

日本の諺としては、「人の振り見て我が振り直せ。」、あるいは「他山の石」に対応しています。

「folly」はここでは「愚行」という意味ですが、ビジネスでは「金ばかりかかるばかげた事業」という意味で使われますので、覚えておいて損はありません。

因みに、同じ意味のより端的な「Failure teaches success.」という諺があります。

536

Better be single than ill married.

日本語訳

悪い結婚より独身がいい。

日本には、「独身貴族」などのように、独身を礼賛する言葉はありませが、ピッタリな諺は見当たりません。

「結婚」をテーマにした諺は少なくありませんが、賛否相半ばしていて、若干ネガティブな方が多いでしょうか。

因みに、結婚の意味を総合的に表現している、「Marriage halves our griefs, doubles our joys, and quadruples our expenses !」 (結婚は悲しみを半分にし、喜びを2倍にし、出費を4倍にする。) という諺があります。

537

A good wife is a good prize.

日本語訳

良い妻は良い賞である。

日本の諺として、「良い妻」に関するものは「良妻賢母」があります。また、標記の諺を裏返したような「悪妻は百年の不作」があります。

男の身勝手であり、妻からの言い分もあるわけですが、男の人生は妻が長期間に与える影響が大きな要素となることは間違いありません。

因みに、より正しい諺として、「A good

husband makes a good wife.」(良い夫が良い妻を作る。)があります。

538

Experience must be bought.

日本語訳

経験は買われるべきである。

日本の諺としては、「若い頃の苦労は買ってでもせよ。」に通じるものがあります。つまり、苦労は貴重な経験となつて、将来役に立つということです。

実際に経験することは、書籍や映像での疑似体験に比較すると、極めて多くのことを学べます。

標記の諺は、もし、経験が買えるものであるならば、買う価値があるとしています。

より端的な諺として、「Experience is the best teacher.」があります

539

Who holds the purse rules the house.

日本語訳

財布を持つ者が家を支配する。

日本の諺としてはピッタリなものは見当たりませんが、家計の実権を握る人（多くは奥さん）を、冗談で「我が家の大蔵大臣」と呼ぶことが少なくあり

ません。

要するに、「Money is power.」であり、そのお金が入っているのが「purse」ということです。

変化形として、「He who holds the purse rules the house.」も使われます。

因みに、「purse」を含む使える諺として、「A heavy purse makes a light heart.」があります。

540

Through obedience learn to command.

日本語訳

服従を通じて支配することを学べ。

日本の諺としてはピッタリなものは見当たりませんが、標記の考え方は以前から耳にしていました。

組織の一員として、指示命令系統の実際を経験したことがない者が、突然命令する立場になると、上手くいかないという考えです。

標記は大きな組織に関わるものですが、同じキーワードを使った、身近な諺として、「An obedient wife commands her husband.」（従順な妻は夫を支配する。）があります。

541

Money comes and goes.

日本語訳

お金は来て行く。

日本の諺としては、「金は天下の回りもの」に対応します。

お金は一か所にとどまらず、世の中をめぐっているものという意味になります。。

今金を持っている者もいつか失ったり、今は金がない者もいつか手に入れることもある。今失っていたとしてもまじめに働いていればまた入ってくるから、悲観しなくてもいいという励ましの言葉となります。

因みに、未来形の「Money will come and go.」も使われます。

542

What you lose on the swings, you gain on the roundabouts.

日本語訳

ブランコの損を回転木馬で得る。

日本の諺としては、「損して得捕れ。」に対応しています。

昔の遊園地経営において、ブランコを無料にし、回転木馬の料金収入で埋め合わせるといった構造がありました。

「swings」が「ブランコ」、
「roundabouts」が「回転木馬」であるということ、さらに、遊園地経営の仕

組みを知らないと、標記の諺は理解できません。

「gain」の代わりに「make up for」を使った「What you lose on the swings, you make up for on the roundabouts.」があります。

543

Vengeance belongs only to God.

日本語訳

復讐は神にのみに属する。

日本の諺にはピッタリなものは見当たりません。

人は自分で復讐する必要はなく、全知

全能である神はすべてをお見通しなので、相手に対して、しかるべき罰を与える、という考え方です。

また、人が復讐しようとする。相手を間違ったり、関係ない人を巻き込んでしまうことがあり、軽挙妄動を戒めています。

「vengeance」を含む別の諺として「Heaven's vengeance is slow but sure.」（天網恢々かいかい疎にして漏らさず。）があります。

544

Riches alone make no man happy.

日本語訳

金持ちだけでは誰も幸せにしない。

日本の諺としては、ピッタリなものは見当たりません。

「Money is power.」であり、お金が大きな力を持つことには、すべての人に異論がないとことだと思えます。

標記の諺も、「お金が必要でない」とは言っていません。それだけではだめだとしています。

「rich」を含む別の諺として、「A rich man's joke is always funny.」（金持ちの冗談はいつも面白い。）があります。

545

Save for rainy day.

日本語訳

雨の日のために蓄えよ。

日本の諺としてはピッタリなものは見当たりませんが、「まさかの時の備え」という慣用句はよく耳にします。

雨は生物にとっては、また農産物にとっては「恵みの雨」であるわけですが、程度によっては人々の行動を抑制します。

この意味で「rainy day」は「望ましくない日」となります。

バリエーションとして「Save for a rainy day.」、「Save something for a rainy day.」があります。

Even monkeys sometimes fall off a tree.

日本語訳

猿でさえ木から落ちる。

日本の諺「猿も木から落ちる。」の翻訳が広がったものと思われます。

また、自然発生的に生まれた可能性もありますが、古代中国の思想書「淮南子（えなんじ）」が由来とも考えられています。

英語の諺としては、「Even Homer sometimes nods.」（ホメロスでさえ、時にはうっかりミスをする。）が最も有名です。

また、「Everyone makes mistakes.」も

同様の意味で使われます。

変化形として、「Even monkeys fall from trees.」も使われます。

547

Where there' s smoke, there' s fire.

日本語訳

煙のあるところに火はある。

日本の諺としては、「火のない所に煙は立たぬ。」がピッタリです。あるいは、英語への翻訳の逆優入かも知れません。説明するまでもなく、要は「原因（fire）のないところに結果（smoke）はない。」ということです。

英語の諺としては、より端的な「There is no smoke without fire.」、「No smoke without fire.」があり、むしろ、よく知られています。

548

The great fish eat the small.

日本語訳

大きな魚は小さなものを食べる。

日本の諺としては、「弱肉強食」に対応します。

自然界においては、食物連鎖という原理があり、小さな生物や弱い生物が大きな生物や強い生物のエサにならざる

を得ません。因みにこの自然の原理を「law of the jungle」と言います。

「弱肉強食」の語源的なことは判然としませんが、日本が「肉」で英語の諺が「魚」であることは面白いですね。

変化形として、「Bigger fish eat small fishes.」があります。

549

When the cat' s away, the mice will play.

日本語訳

ネコがいなくなると、ネズミが遊ぶだろう。

日本の諺としては、「鬼のいぬ間に洗濯」が対応します。

標記の諺の状況は、かなり一般的な理解で十分なようですが、むしろ日本の諺の方こそ説明が必要です。

まず、「鬼」は「怖い人・口うるさい人」の例えであり、次に、「洗濯」とは「衣類の洗濯」ではなく、「命の洗濯」の意味で使われています。

要するに、管理者・監視者が不在であれば、気が休まる時間が持てるということです。

Persistence pays off.

日本語訳

根気良さは報われる。

日本の諺としては、「継続は力なり。」
が対応しています。

すべて難易度の高い言葉ですが、

「persistence」は「粘り強さ・持続性」
の意味であり、「pays off」は「成功す
る・上手く行く」という意味になりま
す。

また、同様の意味の諺として、

「Continuity is the father of
success.」（続けることは成功の父であ
る。）、「Constant dripping wear away a
stone.」（続いた点滴が石を壊す。）が

あります。

551

Repentance comes too late.

日本語訳

後悔は遅くなりすぎてから来る。

日本の諺としては「後悔先に立たず。」、「後の後悔先に立たず。」が対応しています。

理屈から言えば、終わってしまったことを後悔するのであって、事前に後悔することはできません。

「repentance」の元の動詞は「repent」、どちらにしてもあまりお目にかからな

い言葉ですが、「repent」を使った
「Marry in haste repent at leisure.」
（急いで結婚してゆっくり後悔しろ。）
という諺があります。

552

Money will come and go.

日本語訳

お金は来て行くだろう。

日本の諺としては、「金は天下の回りもの」に対応します。

現代社会の経済分野では、「お金ではなく、「通貨=currency」であり、その語源は、「流行・流れ」であり、社会の中

を流れていくものということです。
今金を持っている者もいつか失ったり、
今は金がない者もいつか手に入れるこ
ともあります。今失っていたとしても
まじめに働いていればまた入ってくる
から、悲観しなくてもいいという励ま
しの言葉としてもつかえます。
因みに、「Money comes and goes.」と現
在形のものも使われています。

553

Out of the mouth comes evil.

日本語訳

悪いことが口から来る。

日本の諺としては「口は災いの元」が対応します。

社会において、コミュニケーションは大切ですが、話すことの危険性は低くはありません。

多くの良い話をしていても、わずかな失言で、相手の評価がマイナス領域に入ってしまうことになります。

より整理された諺として、「More have repented speech than silence.」（沈黙より話したことを後悔する人の方が多い。）があります。

554

Nothing is hard to a willing mind.

日本語訳

やる気の心には何も難しいものはない。

日本の諺としては「意あれば通ず。」が近いでしょうか。

「好きこそものの上手なれ。」に対応するとされていますが、、ニュアンスが違います。

そう考えると、「Where there is a will there is a way.」という諺と近いのではないかと思います。

因みに、「willing」を含む別の諺として、「Do not spur a willing horse.」

(やる気のある馬に拍車をかけるな。)

「The spirit is willing but the flesh is weak.」(気持ちはやる気なの

に、体が弱い。) があります。

555

He who falls today may rise tomorrow.

日本語訳

今日倒れた男は明日立ち上がるかも知れない。

日本の諺にはピッタリのものは見当たりませんが、「七転び八起き」が近いかも知れません。

また、中島みゆきさんの「時代」の一節を思い出させますね。

当然ですが、「He who」ではなく、「He that」でも使われています。

因みに、復活に関する別の諺として、
「He who fights and runs away may
live to fight another day.」（戦い逃
げる者はいつの日か生きて戦うだろう。）
があります。

556

When one door shuts, another opens.

日本語訳

一つのドアが閉まったら、他が開く。

日本の諺としては、「捨てる神あれば拾
う神あり。」に近いかも知れません。

この日本の諺は、神々の中で、あなた
の運命を閉ざしてしまう神がいたとし

ても、別の神が助け舟を出すという意味です。

標記の諺には「God」は登場していませんが、やはり、一つの可能性や道筋が閉ざされたとしても、他の可能性や道筋があるものだとしています。

悲観すべき状況においても光明があるとする諺として、「Every cloud has a silver lining.」（すべての雲には銀の裏地がある。）があります。

557

Good fortune and happiness will come to the home of those who smile.

日本語訳

良い運と幸せは笑っている家庭に来る

だろう。

日本の諺としては、「笑う門には福来たる。」がピッタリです。

因みに、「smile」と「Laugh」は、「微笑む笑い」と「声を出す笑い」と思われますが、諺としては「Laughter」や「Laugh」の方が多いようです。

その例として、「Laugh and the world laughs with you; weep and you weep alone.」（笑えば世界が一緒に笑う、泣けば一人で泣く。）や「Laughter is the best medicine.」（笑いは最高の薬である。）があります。

558

Think today and speak tomorrow.

日本語訳

今日考え、明日話せ。

日本の諺としてはピッタリなものは見当たりません。

要は、反射的に話すのではなく、熟慮して話すことを奨励している諺と言えます。

19 世紀に活躍したイギリスの数学者・哲学者であったバートランド・ラッセル卿は、数学の定理を考えるのに、必要な情報をインプットしてから休暇をとり、休暇を終えて大学に戻るとその命題は解けていたと言います。思考は

醸成されるということです。

また、「Second thoughts are best.」

（再考が最善である。）という諺もあります。

559

He catches the wind with a net.

日本語訳

彼は網で風を捕まえる。

日本の諺である「暖簾（のれん）に腕押し」に対応するとされています。しかし、「腕押し」はどうも「腕相撲」のことであり、この諺は「相手が弱くて勝負にならない。」と解すべきであり、

標記の諺とは相入れないと思います。
むしろ、近い諺は、「木に縁りて魚を求む。」ではないでしょうか。
普通に考えれば、「網で風を捕まえることは不可能であり、それをしようとしている者は手段が間違っている。」ということの例えとではないでしょうか。

560

Set a thief to catch a thief.

日本語訳

泥棒を捕らえるのに泥棒を置きなさい。

日本の諺としては、「毒をもって毒を制す。」が近いでしょうか。

泥棒が考えることは泥棒が一番わかるわけです。この手法は現代社会においても活用できるものであり、窃盗犯に対する対策も泥棒経験者から情報収集することで行われていると聞きます。

よく似た諺として、「An old poacher makes the best keeper.」（年取った密陽者が最高の守護者になる。）があります。

561

What happens twice will happen three times.

日本語訳

二回起こることは三回起こるだろう。

日本の諺「二度あることは三度ある。」
にピッタリです。

一度しか起こっていないことは、偶然の産物であることが多く、二度同じことが起これば、何かしら必然性があるかも知れません。これは、科学的・論理的な推論と言えます。

日本の諺の場合、歴史上の文献からの引用ではなく、人々の生活の中での経験則が定着したようです。

別の表現として、「Things come in three' s.」（ものごとは三回来る。）があります。

562

Throw dirt enough and some will

stick.

日本語訳

十分な泥を投げろ、そうすれば、いくらかくっ付くだろう。

日本の諺としてはピッタリなものは見当たりませんが、「下手な鉄砲も数撃ちや当たる。」に一部通じるものがあります。

「dirt」（土・泥）は汚いものなので、「悪評を数多く流せば、信じられるようになってしまう。」ということの例えとして使われます。

「Throw」の代わりに「Fling」を使った、「Fling dirt enough and some will stick.」もあります。

563

Light supper makes long life.

日本語訳

軽い夕食が長寿を作る。

日本にはたくさんの食に関する名言や諺がありますが、標記の諺に通じるものは「原八分目」でしょうか。

同じことをブラックジョークとして表現した諺として、「Gluttons dig their graves with their teeth.」（大食漢は彼らの歯で彼らの墓を掘る。）があります。

「supper」を使った、「After dinner

rest a while after supper walk a mile.」(豪華な食事の後は暫く休め、普通の夕食の後は1マイル歩け。)という諺があります。

564

The greater embraces the less.

日本語訳

より大きいものがより小さいものを包含する。

日本の諺、古代中国の文献「春秋繁露(しゅんじゅうはんろ)」に由来する「大は小を兼ねる。」に対応しています。因みに、「embrace」は「抱擁する・抱

擁」の意味ですが、ここでは「包含する」という意味で使われています。。
変化形として、「embraces」ではなく、「hides」や「includes」でもほぼ同じ意味になります。また、よく似た諺として「The greater serves for the lesser.」（大は小にも役立つ。）があります。

565

Go down the ladder when you marry a wife, go up when you choose a friend.

日本語訳

妻を娶る時は梯子を下りろ、友を選ぶ

時は登れ。

日本の諺としてはピッタリのものは見当たりませんが、以前の封建社会ではこのような考え方は一般的だったかも知れません。

要するに、洋の東西を問わず、階級社会においては、家柄のバランスが重要でした。

妻の生家は夫の家の格よりも低い方が、尻に敷かれることはなく、夫が優位な立場を持てるとされていました。

また、友人の場合は、自分の家より格が上の方が、将来の出世にも良いと考えられていたわけです。

Easier said than done.

日本語訳

為されることより言われることは易しい。

日本の諺としては、「言うは易く行うは難し。」がピッタリです。

標記は諺にするためでしょうか、かなりの単語が省略されています。補うと、

「It is easier to be said than to be done. 」になります。

また、受動態で表現されているものを能動態に直すと、「It is easier to say than to do. 」になります。

因みに、「say」と「do」を使った見事な諺として「Do as I say, not as I

do.」(私の言うようにしなさい、私の
すうことではなく。)があります。

567

A thing you don't want is dear at
any price.

日本語訳

あなたが欲しくないものはいくらでも
高い。

日本の諺としては、ピッタリではあり
ませんが、物の価値についての諺とし
て「安物買いの銭失い。」があります。
人は、ディスカウントされると、つい
買ってしまいがちですが、後から必要

がなかったと後悔するものであり、結果的に無駄遣いになってしまうということです。

因みに、「dear」は「親愛な・いとしい」という意味で知られていますが、ここでは、「値段が高い」という意味で使われています。

568

Virtue is its own reward.

日本語訳

美德はそれ自体が報酬である。

日本の諺としては、ピッタリのものは

ありませんが、「見返りを求めないのが徳行」であるという考えは共通しています。

「virtue」は「美德・徳行」と訳されますが、「健全な価値観」の意味合いがあり、「a woman of easy virtue」は「ふしだらな女・娼婦」という意味になります。

因みに、「virtual」とも語源は同じで、「実質的・本質」が元の意味とされています。

「Virtue」を女性名詞と位置付けて、「Virtue is her own reward.」という変化形もあります。

569

From shirtsleeves to shirtsleeves in

three generations.

日本語訳

シャツ姿からシャツ姿まで3世代

日本の諺としてはピッタリなものは見当たりません。

標記の諺は、19世紀から20世紀にかけて活躍したアメリカの鉄鋼王アンドリュー・カーネギーの言葉とされています。

要は、労働者階級から裕福になっても、まだ労働者階級に戻るのに三世代しかかからないという意味です。

イギリスの古い諺「From clogs to clogs is only three generations.」

（木靴から木靴までわずか三世代であ

る。)の現代版と言えます。

570

One cannot put back the clock.

日本語訳

人は時計を戻せない。

日本の諺としては、「覆水盆に返らす。」が意味的には対応していますが、むしろ、「It is no use crying over spilt milk.」が対として認識されています。理屈っぽく言えば、時計の針は戻すことができますから、「clock」はレトリックとして登場しています。また、文脈によっては、標記の諺は

「覆水～」とは違う、「時代の変化は戻せない。」というニュアンスでも使われることがあります。

571

Time will tell.

日本語訳

時が話すでしょう。

日本の慣用句「時が解決してくれる。」に通じるものがありますが、かなりニュアンスが違うようです。

宇多田ヒカルさんの歌にあるように、意識すると、「そのうち分るよ。」が近いようです。

相手からの質問に、今は答えたくない
ということを強調して、「Only time
will tell.」という表現も使われます。
因みに、「時間の問題」の英語訳は「a
matter of time」です。

572

You should know a man seven years
before you stir his fire.

日本語訳

彼の暖炉の火を掻き回す7年前に、そ
の人を知るべきである。

日本の諺にはピッタリなものは見当た
りません。

イギリスの文化として、暖炉の火を掻き回すということは、その家の主導権を握っていることを意味しています。つまり、他人が知人の家の暖炉の火を掻き回すということは、その人と相当親密になっていることを意味します。標記の諺では、そこまで親しくするには、7年の期間が必要だとしています。

573

Today you, tomorrow me.

日本語訳

今日はあなた、明日は私。

日本の諺としては、「今日は人の身、明

日は我が身」が対応しています。
友人や知人のトラブルや不運を見聞きして、同情してしまうことは少なくありません。

しかし、その時点では他人事であり、深刻には受け止めていないことが常です。

標記より古い時代のものとして、「Today for me tomorrow for thee.」があります。

因みに、「thee」は現在の目的核の「you」に当たる古い単語です。

574

Times change and we with time.

日本語訳

時は変わり、そして私たちは時とともにある。

日本の諺としては、「移れば変わる世の習い」が近いでしょうか。

つまり、時代は不可逆的に変化を続け、私たちはその中で生きていく以外の選択肢はないということです。

「Time is money.」、「Time flies like an arrow.」、「Time and tide wait for no man.」など「time」が含まれる諺は数多くありますが、標記の諺は他の諺よりも含みがあるように思われます。

「時代の変化に対応せよ」と激励しているようでもあり、「時代の変化には抗えないものだ」という諦観のようでもあります。

575

Tomorrow is another day.

日本語訳

明日は別の日である。

標記の諺の出典は、アメリカの女流作家マーガレット・ミッチェルの小説「風と共に去りぬ」のエンディングで、主人公のスカーレットが呟いた一言です。

この小説の原題は「Gone with the Wind」であるため、「明日は明日の風が吹く。」のように意訳されているようですが、原文は標記というわけです。

確か、中学三年生の夏休みに、夢中になってこの小説を読んだことを覚えています。

576

Truth lies at the bottom of a well.

日本語訳

真実は井戸の底にある。

古代ギリシャの哲学者デモクリトスの「真理は深淵にある。」という言葉に由来し、人知が及ばない領域があることを意味しています。

この諺を使用する状況は、ほとんど想

定できないと言えます。

因みに、「truth」を使った諺として、

「The truth will out.」（真実は明らかになるだろう。）、「There is truth in wine,」（真実はワインの中にある。）などがあります。

577

Tongue is not steel, yet it cuts.

日本語訳

舌は鉄ではないが、切る。

日本では、「言葉の暴力」という慣用句があり、標記と通じるものがありますが、ピッタリの諺は見当たりません。

物理的な暴力もさることながら、誹謗や期待を裏切る発言など、いわゆる「心を傷つける言葉」は、受けた人の耐性にもよりますが、軽いものではありません。

同じ意味の諺として「Words cut more than sword.」（言葉は剣よりも切る。）があります。

578

Travel broadens the mind.

日本語訳

旅は心を広げる。

日本の諺としても、「旅は道連れ世は情

け」や「旅の恥はかき捨て」など、旅に関する諺は少なくありませんが、その中では、「かわいい子には旅をさせる。」が標記と通じるものがあると思われます。

旅に関する古代の諺として、8世紀にイベリア半島を支配したムーア人の「He who does not travel does not know the value of men.」（旅をしない者は人の価値を知らない。）があります。

579

The tree is known by its fruit.

日本語訳

木はその実によって知られる。

日本の諺にはピッタリのものは見当たりませんが、同様の価値観は日本にもあると思います。

木は枝ぶりや幹や葉の形状によって見分けるのが一般的ですが、標記はある意味、現実的で功利的とも言えます。

確かに、美味しく栄養のある実がなる木であれば、見分け方を覚えておく価値があるということです。

由来は新約聖書にも、「The tree is known by its fruit, not by its leaves.」という一節があり、標記の諺はその前段です。

580

Tomorrow never comes.

日本語訳

明日は決して来ない。

日本の諺としてはピッタリなものはありません。

標記の諺は、はっきりと言い切っていますが、論理的に考えれば事実とは言えません。

実際に使われる状況としては、今日できることを先延ばししようとしている人を戒める際の言葉と言えます。

近い諺としては、「One of these days is none of these days.」（このところの一日はこのところのいつでもない。）があります。

581

Two blacks do not make a white.

日本語訳

二つの黒は白を作らない。

かなり哲学的であり、日本の諺にはピッタリなものは見当たりません。

私だけかも知れませんが、マイナスとマイナスをかけるとプラスになるという数学を思い出させます。

要は、相手が悪いことをしているから、あるいはほかの人も悪いこともしているからと言って、自分が悪いことをすることを正当化することはできない、

ということのようです。

標記の諺は抽象的なので、具体的な
「Two wrongs do not make a right.」
の方が分かりやすいですね

582

Uneasy lies the head that wears a
crown.

日本語訳

王冠をいだく頭は安らげない。

日本の諺ではピッタリのものはありませんが、「権力者の孤独」の認識は洋の東西を問わないと思います。

標記の諺は、16 世紀のイギリスの劇作

家、シェークスピアの作品「King Henry IV」(ヘンリー四世)における、まさに王の眩きが由来と言われています。

現代においても、企業や様々な組織のトップは、最終的には自分の責任で大きな決断をする必要があり、プレッシャーは大変なものでしょう。

583

The unexpected always happens.

日本語訳

想定していないことがいつも起こる。

日本の諺としては、「一寸先は闇」が近

いでしょうか。ただし、この諺の場合は、「闇」とあるように「悪いこと」を前提としているのに対して、標記の諺は「良いこと」も包含されている言えます。

21 世紀前半の最大の「想定外の出来事」は、新型コロナウイルスによるパンデミックでしょうか。

意味の近い諺として、「Nothing is certain but the unforeseen.」（先が見通せないということ以外何も確実なこととはない。）があります。

584

Union is strength.

日本語訳

団結は強さである。

日本の諺としては、「和を以て貴しとなす」ですが、標記の諺とはかなりニュアンスが違います。

日本での定訳では、「団結は力なり。」となっています。

因みに、イギリスの国旗は「Union Jack」（ユニオンジャック）と呼ばれていますが、「ユニオン」は連合王国であることを意味し、海洋王国であったため、船の船首の旗を意味する「ジャック」が結びついたと言われていています。

連合することの効果は、以下の諺
「United we stand, divided we fall.」

に示されています。

585

Variety is the spice of life.

日本語訳

バライアティは人生のスパイスである。

日本にも同様の認識はあると思いますが、ピッタリの諺は見当たりません。

上記の日本語訳では「Variety」をカタカナにただけにしましたが、「変化」と訳すとニュアンスが違ってしまおうと考えたからです。

少し回りくどくなりますが、「変化に富

むこと・ 多様（性）」が正確な意味だ
と思います。

つまり、人生において、「単調さは苦痛」
ということです。

近い意味の諺として、「A change is as
good as a rest.」があります。

586

You never know what you can do till
you try.

日本語訳

何ができるかやってみるまであなたは
知ることはない。

日本の諺としては、「物は試し」がありますが、標記に比較すると、軽すぎるニュアンスがあります。

要するに、試してみることなく、「できない」と諦めてしまうことを戒めた言葉です。

「what you can do」を省略した、「You never know till you try.」も使われますが、この場合は、むしろ、できるかできないかだけでなく、「経験しないとわからない」という意味とも考えられます。

587

The voice of people is the voice of God.

日本語訳

人々の声は神の声である。

日本の諺にはピッタリなものは見当たりませんが、「天声人語」と強い関係があります。

意味としては、「民の声に真実があるので重視しなさい。」ということになります。

ラテン語の「Vox populi, vox Dei」が由来であり、朝日新聞の一面のコラム「天声人語」の翻訳版はこの言葉が使われていました。

50年前の大学受験時に教材として使用した思い出があります。

Wall has ears.

日本語訳

壁に耳がある。

日本の諺、「壁に耳あり障子に目あり。」
の前段そのものと言えます。

要するに、油断していると、特別な人と会っていること、その際に話している内容が、こちらの想定に反して思わぬ人々に知られてしまうということです。

因みに、「壁に耳あり障子に目あり。」
に対応した英語の諺として、「Fields have eyes, and woods have ears.」（野原に目あり、森に耳あり。）があります。

589

Walnuts and pears you plant for your heirs.

日本語訳

クルミと梨は子孫のために植える。

日本には「桃栗三年、柿八年」という、教訓とは言えない諺ですが、生活の知恵の諺と言えるものがあります。

標記の諺は、単純にクルミと梨についての知恵としての意味にもなりますが、比喩として、「成果が出るまで時間が必要なものは、先を見据えて手を打っておけ。」という意味にもなります。

自分の世代ではリターンがないものを軽視しがちですが、次世代以降のために何かを残しておくことは大切なことです。

590

Want is the mother of industry.

日本語訳

不足は勤勉の母である。

日本の諺ではピッタリのものは見当たりません。

日本語訳では「Want」を「不足」と訳しましたが、さらに意識して「貧困」とした方が良くも知れません。

また、「industry」は、一般的には「産業」ですが、ここげは「勤勉」と訳すべきケースのようです。

構造的に同じで、より有名な諺として「Necessity is the mother of invention.」（必要は発明の母である。）や「Diligence is the mother of good luck.」（勤勉は幸運の母である。）があります。

591

Wanton kittens make sober cats.

日本語訳

いたずら好きの子猫が冷静な猫を作る。

日本にはピッタリな諺は見当たりません。

「wanton」は、「ふしだらな・不貞な」という意味もありますが、ここでは「じゃれる・いたずら好きな」という意味になります。

「sober」の元の意味は、「酔っていない・しらふの」という意味ですが、ここでは「冷静な・分別のある」という意味になります。

要は、子どもの頃、いたずらが過ぎる者であっても、大人になればきちんとした社会性を身に着けるものだということです。

592

Waste not, want not.

日本語訳

無駄無し、不足無し。

日本の諺に、「骨身惜しむな無駄惜しめ。」というものがありますが、通じるものがあります。

環境問題が人類の大きなテーマである現在、「waste」は「廃棄物」として認識されていますが、元々は動詞として「浪費する・無駄遣いする」という意味で使われていました。

因みに、「waste」を使った別の諺として「Haste makes waste.」（急ぎが無駄を作る。）があります。

593

What Manchester says today, the rest of England says tomorrow.

日本語訳

今日マンチェスターが言うことを明日残りのイギリスが言う。

日本においても平安時代からごく最近まで、京都が政治と文化の中心であり、流行は京都で生まれ、各地に「下って」いったわけです。

一方、工業都市として発展したマンチェスター (Manchester) は、イングランドの北西部、グレーター・マンチェスターに位置しています。

産業革命の発祥地と言えるマンチェス

ターはその経済力を背景に、イギリスの生長点だったわけです。

594

What must be, must be.

日本語訳

そうなるべきことはそうなる。

日本にはピッタリの諺は見当たりません。

これはある意味運命論の考え方であり、そうでないことを願っても、その結果を嘆いても、人間の力の及ばないところでものごとは決められているということです。

「what will be, will be.」もほぼ同じ意味の諺です。

また、近い意味の諺として、「Nothig is certain but the unforeseen.」（先が見えないということ以外確かなものはない。）があります。

595

Well begun is half done.

日本語訳

上手く始まれば半分為された。

日本の諺としては、「始め半分」がありますが、標記の諺の意識ではないでしょうか。

標記の諺の理由を示した諺として、
「The first step is always the hardest.」（最初の段階がいつも最も厳しい。）があります。

因みに、「begin」を含む諺として、「He who begins many finishes but few.」
や「If you the daughter win, you with the mother first begin.」があります。

596

What the eye doesn't see, the heart doesn't grieve over.

日本語訳

目が見ていないことを心は嘆かない。

日本の諺としては、「見ぬもの清し」、あるいは「知らぬが仏」が近いものと言えます。

要するに、見なければ、汚いものも気付くこともないということになります。標記の諺とほぼ同じ意味で、「知らぬが仏」に対応する諺として「What you don't know won't hurt you.」（あなたが知らないことはあなたを傷付けない。）があります。

597

What the heart thinks, the tongue speaks.

日本語訳

心が考えたことを舌が話す。

日本の諺として、中国の四書五経の礼記に由来する「思い内にあれば色外に現る。」があります。

一見、当然の事のように思えますが、時には相手に知られたくない本音が口をついて出てしまうこともあります。

標記は、このような状況も含んだ認識を表現しています。

より直接的に失言に対する注意を促す諺として、「Better the foot slip than the tongue.」があります。

598

What's done cannot be undone.

日本語訳

やってしまったことはしなかったことにできない。

日本の諺としては、「覆水盆に返らず。」が対応しています。

ただし、「覆水盆に返らず。」は現在では広い意味で使われていますが、元々は、「一度壊れてしまった男女の中は戻らない。」という意味でした。

同じ意味の最も有名な諺として「It is no use crying over spilt milk.」（零れたミルクを嘆いても無駄である。）があります。

また、主語を「Things done」に代えた「Things done cannot be undone.」と

いう変化形もあります。

599

A good Jack makes a good Jill.

日本語訳

良いジャックは良いジルを作る。

日本の諺としては、「破れ鍋に綴蓋」が対応しています。

説明するまでもなく、「Jack and Jill」は日本の「太郎と花子」と同様に若い男女の代名詞として使われています。

善良な男の子が妻を娶って、仲良く暮らせば、妻も善良に生きていく、とい

うことを意味します。全く同じ意味の諺として、「A good husband makes a good wife 」があります。

「Jack and Jill」が登場する他の諺として、「Every Jack has his own Jill.」（すべてのジャックにふさわしいジルがいる。）があります。

600

Think with the wise but talk with the vulgar.

日本語訳

賢人と考えろ、しかし、大衆と話せ。

後半は、日本の諺「人を見て法を説け。」

に通じるものがありますが、全体としてピッタリなものは見当たりません。標記の諺はギリシャ時代からの諺とされています。

賢者は、自分の知らない知識や視点を持っているので、それこそ「知恵を借りる」べきですが、実際にものごとは一般大衆と進めていかなければならないわけでは

因みに、「vulgar」は現在では「わいせつな、卑わいな」という意味で使われますが、元々は「一般大衆の」という意味でした。